

ジュッペちゃんの涙(No.51)

平成 23 年(2011 年)7 月 12 日

大中里保育園 園長 塩川寿平

続！“家庭教育重点週間”を真剣に再考してみよう

①良い子が育つコツは「家庭教育 50%」「公教育 50%」と心得よう！

すこし乱暴な前提ですが、私は教育者としての長年の経験から『良い子が育つコツ』は、「家庭教育の力が 50%」「公教育（保・幼・小・中・学童保育・社会教育）の力が 50%」で、車の両輪のように両者が協力し合った状態がベストだと考えています。

両者には別々の異なる役割があるからです。家庭教育の最大の役割は、自身のルーツを伝えることです。先祖の話、祖父母の話、両親の話、そして『私が生まれ』絶えることなくつながっている感動と感謝の心。どのような家庭であっても小説が 1~2 冊書けるほどの大変な『努力』と『辛抱』と『苦労』の連続があったはずで

②ルーツを知ることは「つながり」を感じられ、精神的な宝物となる！

ルーツを語ることにより、特別な血の流れによる家族の絆、血縁の強さによる『かけがえのないつながり』に気づくのです。お盆は『つながりを知る』貴重なチャンスです。

実は今日、個人情報という法律のためにプライバシーについて、第三者は突っ込んだ話ができません。昔、小作人だったことや、祖父は太平洋戦争で戦死して、貧乏になり、祖母はリヤカーで行商し父や母を育てたこと。また父の会社が倒産して苦労した話など。このようなケースはどこの家庭にもあるのですが、血族以外には個人情報を語れない時代になりました。公教育の場で個人の家庭の中を語れない時代になったのです。血族だけが唯一語れるのです。だからジュッペちゃんは血族の人に「ルーツを語って！」と願うのです。

③『お父さんとお母さんの子でよかった』と言える子を育てましょう

私が家庭教育重点週間を作ったワケは、自暴自棄になったり自殺をしたりする不幸な子はルーツを学んでこなかった子だと気づいたからです。なぜ「自尊心」や「自己肯定感情」が育たなかったのか？『かけがえのないうちの子』『オンリーワンの私』『お父さんとお母さんの子でよかった』という『絶対評価』の価値観を育てるのは家庭教育が公教育よりずっと有利です。“ボクはボクで良いのだと知った子は精神の安全能力の強い子”です。

公教育はどうしても 10 名~20 名という集団教育です。「みんな一緒」「みんな同じ」「順番」「かわりばんこ」「公平」「平等」という社会性を育てるのには有利です。この価値観も 50%は大切ですが、独自性・主体性・個性を知らずに形式的に平等を学習した子には落とし穴が待っています。ドロップアウトする子は「努力してない」「真似している」「みんなの流れ」で、実際に『成績が悪いのに平等に扱え！』と平等の権利だけを主張します。

④能力主義も成果主義も 50%正しいのです。同時に、うちの子はうちの子！ オンリーワン！の哲学も 50%正しいのです。

世の中には『競争という』恐ろしい掟があります。世間は甘くはありません。実社会では『能力主義』『成果主義』『偏差値教育』『相対評価』『ナンバーワン主義』が待ち構えています。この価値観にも 50%の正しさがあり、必ず優劣がつきます。負けて打ちひしがれて「不公平」「不平等」と叫んで自暴自棄になったり、自殺をしたりする子は、悲しいかな『かけがえのないうちの子』『お父さんとお母さんの子でよかった』『オンリーワンの存在』『私は私である。他人は他人である』『絶対評価』というもう一方の大事な価値観が育てられなかった子です。悲しいかな家庭教育が貧弱だった子です。両方の価値観を同時に育てることが本当の教育です。真理には必ず裏と表があります。

どちらも大切です。この世の中から一方を無くしてしまうということはできません。

各家庭で！真剣に『うちの子』を実感する家庭教育を始めましょう。

子の幸せの為に！「過剰な保育の多様化要望=大人の利便性」は朴^ト朴^トに願います！

